

2019年度事業報告書

事業の概要

2019年度（以下「今年度」という。）においては、一般法人法等の関連法案及び定款に遵守した会の運営に務めるとともに、定款に定めた目的及び事業を達成するため、当該年度事業計画の活動指針に沿って、教育・学術・文化の振興のための各種事業を滞りなく実施した。

また、6月開催の定時社員総会において、任期満了に伴う理事を改選し、新理事を選任するとともに、社員総会終了後開催の新理事による理事会において、会長、副会長、専務理事及び常務理事を互選し、新しい執行体制を構築した。

計画していた各種事業について、平成10年の授賞制度改正以降、22回目を迎えた2019年度アカデミア賞表彰事業は、会員から推薦のあった候補者について、選考委員会において慎重に選考を重ね、理事会の議を経て、文化部門から1名、文化・社会部門から1名、計2名の受賞者を決定した。授賞式は、多くの会員の協賛のもとに盛大にかつ好評のうちに催された。

この詳細については、本会HP及び会誌ACADEMIA No175 2020.2に掲載されている。

第8回となる「2019年度アカデミア教育研究助成事業」は、会員のほか各都道府県及び政令指定都市の各教育委員会、並びに関係教育機関へ応募要項を送付するとともに、本会HPに掲載するなど広く周知を図った結果、5件の応募が得られた。応募のあった教育研究について選考委員会において選考を重ね、理事会の議を経て、個人研究1件、グループ研究1件に対し助成を決定した。贈呈はアカデミア賞授賞式に合わせ執り行われた。

この詳細は、本会HP及び会誌ACADEMIA No175 2020.2に掲載されている。

講演会等の開催については、恒例のアカデミア賞受賞者による記念講演及び沖縄支部主催の地区講演会等の他、8月、一般社団法人野尻高原大学村主催「暮らしの森づくりシンポジウム」及び9月、NPO法人SPERA 森里海・時代を拓く主催「第10回有明海再生シンポジウム：豊かな有明海と周辺地域社会を未来世代に」を共催した。「暮らしの森づくりシンポジウム」の詳細は、本会HP及び会誌アカデミアNo173 2019.10に掲載され、「第10回有明海再生シンポジウム」は会誌ACADEMIA No176 2020.4に掲載されている。

昭和21年創刊の機関誌「会誌ACADEMIA」は、2012年以降環境に関連する課題を取り上げ、今年度もさらなる充実を図るとともに、多くの関係者の協力を得て滞りなく5回刊行し、会員及び関係機関等に広く配布した。

主な事業

1. 教育・学術・文化の振興のための顕彰及び助成

1) 文化・社会及び国際交流に著しく貢献した人材に対するアカデミア賞の授与

令和2年2月7日（金）都ホテル京都八条において、2019年度アカデミア賞授賞式を挙行し、次の各氏に対しアカデミア賞を授与した。

【文化部門】

安田 喜憲氏：ふじのくに地球環境史ミュージアム館長、国際日本文化研究センター名誉教授
受賞理由：「年縞」の発見、分析を通じ、環境史と文明の興亡の歴史を解明し、新たな学問分野「環境考古学」の提唱、確立など、比較文明論の発展に寄与した功績。

【文化・社会部門】

松田 治氏：広島大学名誉教授、NPO 法人 里海づくり研究会議 理事長
受賞理由：提唱した里海論を実践し地域創生に貢献するとともに、「Sato umi」として世界の共通語として認知させるなど持続的循環型社会の形成に寄与した功績。

2) 我国の初等・中等及び高等教育の振興のためのアカデミア教育研究助成の贈呈

平成 2019 年度アカデミア教育研究助成は、次の個人研究に対し 10 万円、及びグループ研究に対し 20 万円を贈呈した。

【個人研究】

研究課題：小規模校の学びの質を向上させる遠隔教育の導入・推進における一考察
受賞者：鹿児島県阿久根市立尾崎小学校教頭 山口 小百合氏

【グループ研究】

研究課題：森里海連環学の学びを通して高津川流域の保全活動を考える
～高津川流域 3 校連携の取り組み～
受賞者：島根県立津和野高等学校、益田高等学校、吉賀高等学校の生物担当教員グループ

2. 教育・学術及び文化に関する講演会及びセミナー等の開催

1) 本部主催講演会等

①共催：一般社団法人野尻高原大学村主催「暮らしの森づくりシンポジウム」

開催日時：令和元年 8 月 1 日（木） 13 時～17 時

開催場所：信濃町立黒姫童話館ホール

- | | | | |
|-----|----------------------------------|----------------------------|------------|
| I | 主催者挨拶・趣旨説明 | 一般社団法人野尻高原大学村理事長 | 渡辺 圭司氏 |
| II | 基調講演：「森はよみがえる」 | 一般財団法人 C.W.ニコル・アフアの森財団 理事長 | C. W. ニコル氏 |
| III | パネル討論「暮らしの森づくりとその今日的意義」 | | |
| | 講演 1：いのちを育む森への想い | NPO 法人ガイア・イニシアティブ代表 | 野中ともよ氏 |
| | 講演 2：森と生物多様性 | 総合地球環境学研究所プログラムディレクター・特任教授 | 中静 透氏 |
| | 講演 3：森の文化と林業再生への道－御神木にみる森の命のつながり | 池田木材株式会社代表取締役社長 | 池田 聡寿氏 |
| | 講演 4：森の“音”と健康増進機能 | 京都大学名誉教授・舞根森里海研究所長 | 田中 克氏 |

②共催：NPO 法人 SPERA 森里海・時代を拓く主催

第 10 回有明海再生シンポジウム「豊かな有明海と周辺地域社会を未来世代に」

開催日時：2019年9月8日（日）13時～17時

開催場所：諫早市中央公民館（市民センター）

I 趣旨説明 京都大学名誉教授・舞根森里海研究所長 田中 克氏

II 基調講演：「世界・日本・諫早 いのち輝く社会を」

NPO 法人ガイア・イニシアティブ代表 野中ともよ氏

III パネル討論「海や川や森と共に生きる社会を未来世代に」

話題提供1：「福岡県柳川の掘割にニホンウナギと川遊びの子どもたちを復活させる」

NPO 法人 SPERA 森里海・時代を拓く理事長 内山 里海氏

話題提供2：「三重県鳥羽の海で楽しく遊び漁業を元気づけるエコツーリズムの成幸を」

海島遊民クラブ代表 江崎 貴久氏

話題提供3：「宮崎県椎葉村の奥山で焼畑農業を営み、海山交流植樹祭を開く」

焼畑蕎麦苔楽部代表 椎葉 勝氏

話題提供4：「岩手県一関市で森は海の恋人植樹祭を支えて30年：育まれた地域社会」

岩手県一関市室根町第12自治会長 三浦 幹夫氏

③2019年度アカデミア賞受賞記念講演

開催日時：令和2年2月7日（金）11時～12時30分

開催場所：都ホテル京都八条「陽明殿」

演題：「年縞による環境考古学の確立」

ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田 喜憲氏

演題：「里海を日本に、Satoumi を世界に広げる」

広島大学名誉教授 松田 治氏

2) 支部事業

①沖縄支部 平成30年度夏季講演会

開催日時：令和元年8月18日（日）11時30分～12時

開催場所：ホテルロイヤルオリオン「旭の間」

演題：「琉球大学医学部の40年～創設の頃とその後～」

元琉球大学副学長・医学部長 佐藤 良也氏

②沖縄支部令和2年新春講演会

開催日時：令和2年2月16日（日）12時30分～13時

開催場所：ホテルロイヤルオリオン「旭の間」

演題：「健康長寿復活の為に」

沖縄大学副学長 山代 寛氏

3. 機関誌の刊行

『会誌 ACADEMIA』の発行

○No.171 2019.4 「和食と健康—日本食で健康寿命は伸ばせるか?—」

巻頭言「和食と健康—日本食で健康寿命は伸ばせるか?—」

武庫川女子大学国際健康開発研究所所長・京都大学名誉教授 家森 幸男

「和食の世界的な人気の背景と和食がユネスコ無形文化遺産となった経緯」

第8代ユネスコ(国連教育科学文化機関)事務局長 松浦晃一郎

「和食とは何か?—その成り立ちから考える」

京都府立大学文学部和食文化学科特別専任教授 佐藤洋一郎

「日本人の食と健康長寿:疫学研究からのエビデンスからの考察」

国立がん研究センター社会と健康研究センター長 津金昌一郎

「健康的な日本食とは~様々な年代の食事の比較より~」

東北大学大学院農学研究科准教授 都築 毅

『和食の特色と「上手な食べ方」—健康寿命は自分で延ばせる』

武庫川女子大学国際健康開発研究所所長・京都大学名誉教授 家森 幸男

○No.172 2019.7 「現代社会における登校拒否・不登校問題—問題のありか」と解決の方向を探る—」

「現代日本社会における登校拒否・不登校問題—いくつかの重要な論点について—」

東京電機大学教授 前島 康男

「心理臨床から見た登校拒否—登校拒否は自立への生みの苦しみ—」

立命館大学名誉教授 高垣忠一郎

「学校外教育組織の法認と「学校」の応答性の喪失—教育機会確保法の批判的検討—」

新潟大学准教授 世取山洋介

「親の立場から登校拒否・不登校問題を考える」

「教育機会確保法への違和感と親の思い」

江東の登校拒否・不登校を考える会「のびるの会」代表 平野 浩子

「子どもたちの願いからの出発を」

登校拒否・不登校を考える親の会「ポコ・ア・ポコ」代表 井出 里美

「教育相談からみる登校拒否・不登校問題」

NPO 法人おおさか教育相談研究所理事(前理事長)・相談員 柚木 健一

「ニュージーランドから見た、日本の危機的な教育環境—ニュージーランド留学という選択肢—」

リアルニュージーランド代表 藤井 巖

○No.173 2019.10 「暮らしの森づくりシンポジウム」

I. 主催者挨拶・趣旨説明 一般社団法人野尻高原大学村 理事長 渡辺 圭司

II. 基調講演:「森はよみがえる」

一般財団法人 C.W.ニコル・アフアの森財団 理事長 C.W. ニコル

III. パネル討論「暮らしの森づくりとその今日的意義」

講演1:「いのちを育む森への想い」 NPO 法人ガイア・イニシアティブ代表 野中ともよ

講演2:「森と生物多様性」

総合地球環境学研究所プログラムディレクター・特任教授 中静 透

- 講演3：森の文化と林業再生への道—御神木にみる森の命のつながり
池田木材株式会社 代表取締役社長 池田 聡寿
- 講演4：森の“音”と健康増進機能
京都大学名誉教授・舞根森里海研究所長 田中 克
- 講演5：音のビタミン～ハイパーソニック・エフェクト～
国立精神・神経病研究センター研究所神経研究所 疾病研究第七部部長 本田 学

○No173 2019.10「こころと人間環境—いま「心の時代」をみつめ考える—

◆はじめに—趣旨説明—

『こころの専門家』に求められること—特集にあたって—

京都大学名誉教授、京都市教育相談総合センター常任顧問

(公財)日本臨床心理士資格認定協会専務理事 藤原 勝紀

◆心の専門家が心理臨床の営みを通してみつめ考える—基調提言—

「かけがえのない臨床の心・魂を生きる—今、精神科医・臨床心理士として—」

京都ヘルメス研究所 所長、京都大学名誉教授 山中 康裕

「そっと子どもの心・いのちに寄り添う—心理臨床の視点をいかしたスクールカウンセラーの活動—」

臨床心理士、医療法人竹村診療所臨床心理室長 竹村 洋子

「〈私〉の理に叶う心理臨床と研究と教育—なぜ臨床心理士を生業に歩むのか—」

放送大学大学院臨床心理学プログラム教授 大山 泰宏

◆特別寄稿

私たちの「すまない」

九州大学名誉教授 北山 修

◆さまざまな心理臨床の現場に根ざした心の専門家のまなざし

「地域と風土のこころをもとに暮らすなかで～沖縄の風土に根ざした心理臨床の可能性～」

沖縄国際大学総合文化学部教授 片本 恵利

「被災地と緩和ケアの場で生身に触れて」

広島大学大学院教育学研究科心理学講座教授 服巻 豊

「心理療法における時間の枠組みに対する捉え方の変化が子どもの主体性に与える影響—命と向き合う子ども達との心理療法の体験から—」

京都文教大学臨床心理学部講師 清水亜紀子

「心の時代の二種」

十文字学園女子大学准教授 東畑 開人

「心の専門家の養成課題と新しい実践指導者像への展望」

新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科准教授 浅田 剛正

◆交互するところとからだの観点から

「〈気〉が通う心体と自然」

京都文教大学臨床心理学部教授 濱野 清志

「〈からだ〉と〈こころ〉の重ね合わせを試みる動作療法」

福岡女学院大学人間関係学部 長野 剛

◆特別再録 I

劇作家 山崎正和の提言：『臨床心理学と文明史上の革命』

(臨床心理報 37 (第20巻 第2号) 平成21年7月 1-2巻頭言)

◆心の専門家とともに「心の時代」をみつめる

「人間環境を整え、すこやかに高齢期を生きよう」

東海学園大学名誉教授 奈倉 道隆

「子どもの被害に寄り添い学ぶ—教育行政と第三者機能と教育相談—」

京都教育大学名誉教授、元大津市教育長 桶谷 守

「命」と「いのち」の環境教育ー森里海を紡ぐ

舞根森里海研究所長、京都大学名誉教授 田中 克

「王朝人の歌心」

(公財) 冷泉家時雨亭文庫理事長 冷泉 為人

◆特別再録Ⅱ

座談会：河合隼雄・成瀬悟策が語る『臨床心理スーパーヴィジョンをめぐってーその現在・過去・未来』(現代のエスプリ別冊) ムック-2005/3 (至文堂発行)

○№175 2020.2 「2019年度アカデミア賞」

・2019年度アカデミア賞受賞者業績概要

文化部門： ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田 喜憲

文化・社会部門： 広島大学名誉教授 松田 治

・アカデミア賞受賞者記念講演

「年縞による環境考古学の確立」 ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田 喜憲

「里海を日本に、Satoumi を世界に広げる」 広島大学名誉教授 松田 治

・アカデミア賞授賞式・祝賀懇親会

・アカデミア賞歴代受賞者一覧(授賞制度改正(平成10年度)以降)

・2019年度アカデミア教育研究助成

個人研究：小規模校の学びの質を向上させる遠隔教育の導入・推進における一考察

受賞者：鹿児島県阿久根市立尾崎小学校教頭 山口 小百合氏

グループ研究：里海連環学の学びを通して高津川流域の保全活動を考える

～高津川流域3校連携の取り組み～

受賞者：島根県立津和野高等学校、益田高等学校、吉賀高等学校の生物担当教員グループ

・故ペシヤワール会現地代表 中村哲先生を偲んで

4. その他の事業

「理事会・定時社員総会開催」

①第1回理事会

日時：令和元年6月5日(水) 午後2時～2時30分

場所：新都ホテル「宇治の間」

議案：1. 平成30年度事業報告

2. 平成30年度収支決算

3. 平成30年度公益目的支出計画実施報告書

②定時社員総会

日時：令和元年6月21日(金) 午後2時30分～3時

場所：新都ホテル「八坂の間」

議案：1. 平成30年度事業報告(報告)

2. 平成30年度収支決算

3. 平成30年度公益目的支出計画実施報告書(報告)

4. 平成30年度事業計画及び収支予算(報告)

5. 役員(理事・監事)の任期満了に伴う改選

③第2回理事会

日時：令和元年6月21日（金）午後3時～3時30分

場所：新都ホテル「八坂の間」

- 議案：1. 会長、副会長、専務理事、常務理事の選任
2. 評議員の任期満了に伴う改選
3. 特定資産取崩

④第3回理事会

日時：令和元年11月15日（金）午後2時～3時

場所：新都ホテル「伏見の間」

- 議事：1. 2019年度アカデミア賞の選考
2. 2019年度アカデミア教育研究助成の選考
3. その他
1) 首里城再建支援募金の実施
2) 沖縄シンポジウム「琉球の島々から日本の行く末を見据える」の開催

⑤第4回理事会

日時：令和2年3月27日（金）午後3時～4時

場所：都ホテル京都八条「宇治の間」

- 議事：1. 2019年度事業報告
2. 2019年度収支決算報告
3. 令和2年度事業計画
4. 令和2年度収支予算
5. 令和2年度定時社員総会開催
6. 令和2年度アカデミア賞選考委員会の設置
7. 第5次アカデミア教育研究助成選考委員会の設置
8. 業務執行理事（会長・専務理事）の職務執行状況（報告）
9. 首里城再建支援金募金（報告）

事業報告の附属明細書

事業における重要な事項は、2019年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特に無いため、当該年度の附属明細書は作成しない。